

キリスト教保育

2025年3月1日発行（毎月1回1日発行）第672号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

新年度年間聖句
カリキュラム表

論説

『キリスト教保育指針2024年度版』

解説(2)

松浦浩樹

小論

植物が教えてくれること(2)

山崎裕



2025 MAR.

3

おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

聖書 口語訳聖書・ピリピ人への手紙2章4節

人間は、誰でも意識的に無意識に、自分のことを中心に、また、一番先に考えている。激しい競争社会では、人のことを考える余裕など全くない。もし、一人でも脱落すれば、それだけ自分が有利になるのだ。人の為と書いて、偽（イツワリ、ニセモノ）と読ませている文字は、皮肉だが真実ではないか。この自己中心的価値観の延長線上には、本当の人間としての豊かさや真の平和はあり得ないのである。

すべての人を救うために、この世に來られた主イエス・キリストこそは、己のことを求めずに、他者のために生きてこられた方であった。

人間の成長のプロセスを考えてみると一生まれた初め、保護者のお世話になるだけの、自分のことさえ何もできない所から出発し、やがて、自分ことは出来るようになり、そしてさらに、他者のために労苦することが出来るようになるのである—そこに人格的な成熟があるといえよう。他者のために生きるとは、自己（の主体性）を失うことではなく、本当の意味で、人間になることといえるのである。他者によって生かされ、その中で自分が生きていく—他者とは、実は自分を生かす者なのだ。

「おのおの自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい」—そのようなことが、人間に出来るのであろうか。私たちは思い上がってはいけない。自己本位の私たち人間に、他人のことを考え、愛することは、自分の力では決して出来ないのである。神の子キリストが、己をむなしくして、私たちの中に来てくださり、また、他人（罪人にひとしい）である私たちのために、十字架の死に至るまで、愛してくださった—そこにこそ、他者のために生き得るエネルギーの源泉があるのだ。このキリストに結ばれ、キリストに従うとき、はじめて、真実に他者のために生きるものとされるのである。

（田井中 純作・執筆 時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）

1976年『キリスト教保育』誌3月号より

キリスト教保育

第672号3月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ	2
目次	3

〈巻頭言〉 神さまを信じて委ねる 秦貴詞

〈論説〉 「キリスト教保育指針」

2024年度版「解説」(2) 松浦浩樹

〈小論〉 植物が教えてくれること (2) 山崎裕

図書紹介 谷温恵 栗原一栄

聖書に聞く・お話 月下星志

【カリキュラム】

3月 月のねがい表

心にとめて 鈴木直美

実践報告 富士見保育園

実践からの学び 久保小枝子

心にとめて 半澤納帆

実践報告 ぶどうの木電ヶ崎幼稚園

実践からの学び 布村志保

子どもと賛美するために

絵本のとびら 園子愛

表紙絵 田中慎子

カット 中敦治子 小鯛みのり 藤安初枝 松成真理子 金井ユリ

25 26 28 33 34 36 42 44 45

私たちの園では 赤坂洋子

〈連載〉アタツチメント 遠藤利彦

〈連載〉日々、子どもたちから 斎藤惇夫

学んでいること

目福口福耳福 熊田凡子

礼拝のお話 山本みづき

風 石垣慶子 編集子 赤木敏之

連盟だより

2024年度総目録

2025年度 年主題・年主題聖句

聖句・カリキュラム表

